

流通

世界的なレベルで、
静脈物流を含むSCMの
改善を図っています。

輸送時に発生する環境負荷を削減するために、リコーグループでは、リコーロジスティクスが中心になり、世界レベルでの輸送の改善を図っています。日本では、動脈物流の中心となる製品納入に関しては、工場からお客様への直送体制の構築を推進しています。また、リサイクル事業の黒字化を図るために、静脈物流もSCM(サプライ・チェーン・マネジメント)システムの一環という考えのもとに、販売系のオーダーエントリーシステムにリサイクル情報システム^{*1}を組み込み、動脈物流と静脈物流の一体化を図っています。回収途中で雨に濡れた使用済み製品は再生ができなくなるため、お客様からの直接回収体制を構築し、回収品質の向上を進めています。回収センターを見直し、グリーンセンター^{*2}を設置したことも、この活動の一環です。

^{*1} 51ページを参照。
^{*2} 52ページを参照。

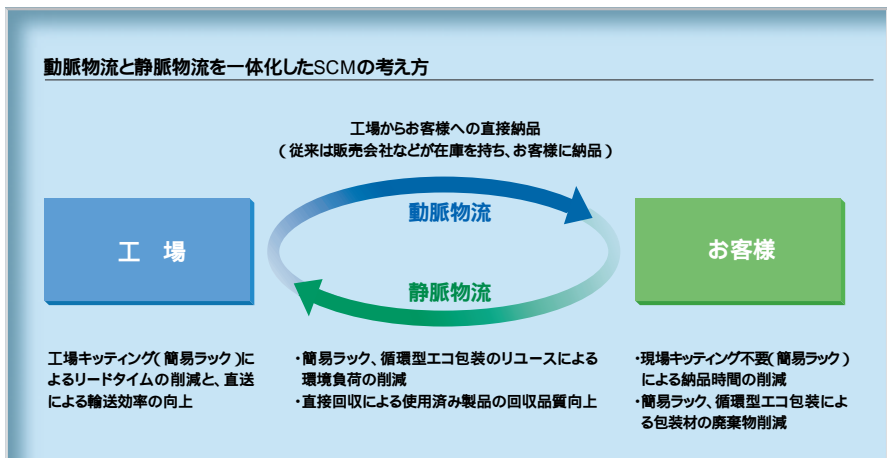
日本 極

循環型エコ包装

リコーは2000年、再生プラスチック材などを使用し、リユースが可能な「循環型エコ包装」を開発しました。リユースすることにより環境負荷およびコストの両面でメリットが得られます。



1994年に開発した「エコ包装」と2000年の「循環型エコ包装」



簡易ラック

プリンターの大口納品などのために、あらかじめオプションを装着して納品するために開発されたのが、パイプ材を利用した「簡易ラック」です。販売会社からの受注情報に基づき、工場でおプション手配や生産計画を立案できるため、納品時の環境負荷削減だけでなく、リードタイムの大幅な短縮化にも成功しました。2001年度上期、簡易ラックによる出荷台数は2,943台、800万円以上の包装材削減に寄与しています。



パイプ材を用いたリユースできる「簡易ラック」

欧州 極

フランス

生産拠点への輸送ルートの改善

リコーインダストリーフランスへの輸送手段をトラックから船便へ変更しました。従来は日本からオランダのロッテルダムまでは船便、その後はリコーインダストリーフランスまでトラック便で部品を輸送していましたが、トラック便からライン川を上る船便に切り替えることにより、CO₂の排出量を40%に削減しました。

中華 極

中国

積載率・輸送経路の改善

中国の物流会社である理光通運では、トラックの輸送経路や積載効率を改善することにより、トラックの使用台数を約50%削減しました。さらにトラック便の使用距離を短縮するなど、環境とコストという視点から、さまざまな改善を図っています。